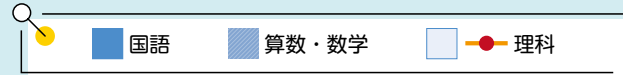


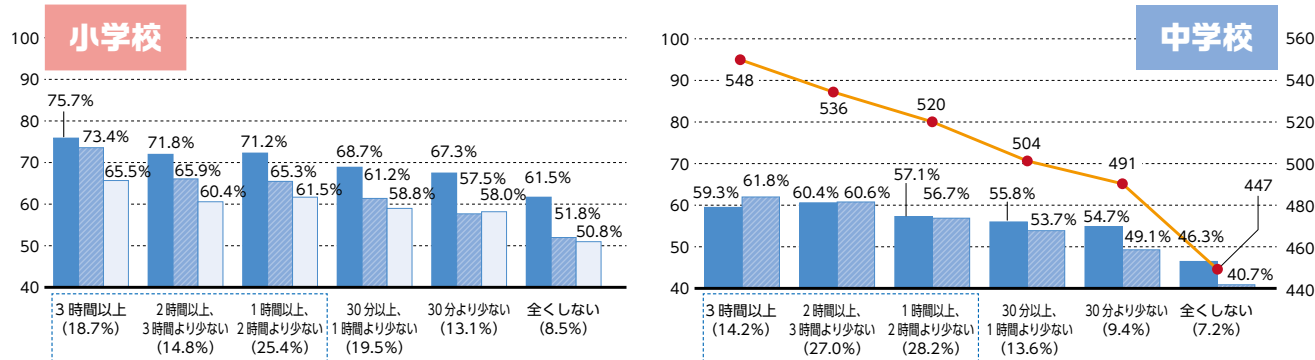
学習状況調査

各質問に対する吹田市の結果です。

生活習慣や学校環境などについての質問に児童・生徒が回答。いずれのグラフも、横軸は質問に対する回答率、縦軸は各教科の平均正答率(中学理科はIRTスコア)を表しており、各質問に対する回答率と平均正答率との相関を示したグラフになっています。



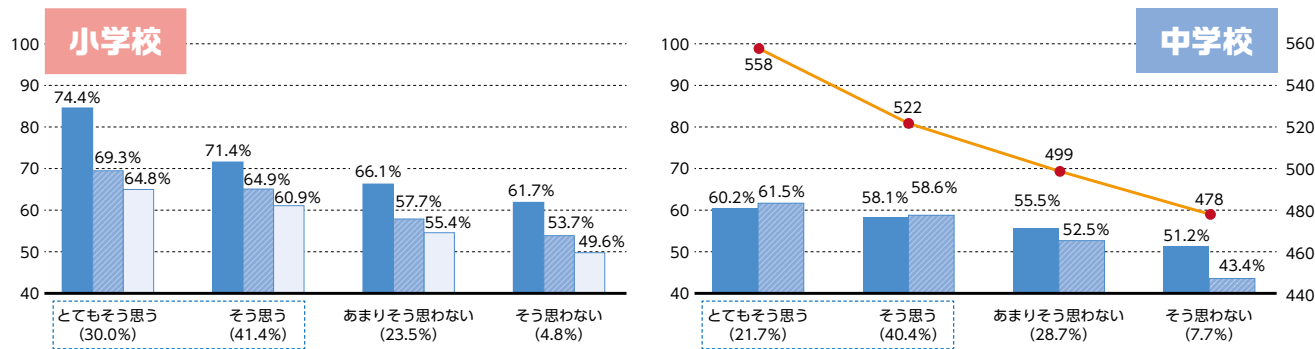
Q 学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)。



1時間以上の時間を回答した割合は、小学校58.9%、中学校69.4%でした。一方で、「30分より少ない」「全くしない」と回答した割合は小学校21.6%、中学校16.6%となっています。ふだんの勉強時間が短い児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が低くなる傾向が見られ、特に算数・数学、理科では大きな差が見られました。

月～金曜日の学校外での学習方法や時間の使い方などについて、学校・家庭・地域で連携して支援を行っていきます。

Q あなたは自分がPCやタブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか。



「とてもそう思う」「そう思う」という肯定的な回答率は、小学校71.4%、中学校62.1%でした。肯定的な回答をした児童・生徒の各教科の平均正答率は、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した児童・生徒に比べ、総じて高い傾向が見られました。

市では「図や表、グラフ、短い文章、会話文などの内容に関連付けて、それを基に論理的に考えたり、自分の考えをまとめ、伝えたりすること」を学習課題として挙げています。児童・生徒がICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができるよう、授業での活用をより積極的に行い、課題解決を図っていきます。

令和7年度

全国学力・学習状況調査



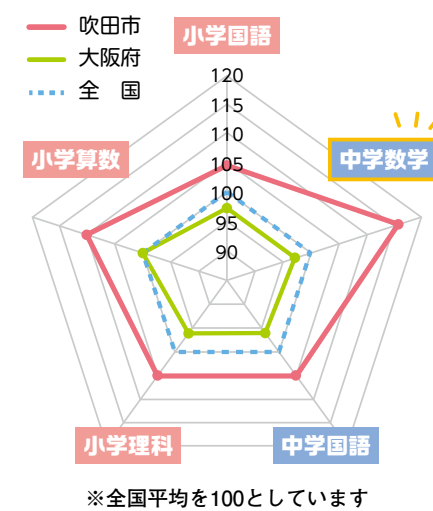
市ホームページ

全国の小学6年生、中学3年生を対象に、4月に行われた同調査の結果の概要をお知らせします。市では、今回の調査結果を分析し、授業の改善や課題の解決に向けて取り組んでいきます。詳しくは市ホームページへ。

学力調査

国語、算数・数学に加え、3年に一度の頻度で英語と理科も実施。今年度から、中学理科は生徒が活用するICT端末などのコンピューターを使った試験(CBT方式)に変更となりました。今後、段階的に小学校も含めすべての教科でCBT方式が導入される予定です。

教科別正答率の全国比 小中学校ともに、すべての教科で大阪府平均、全国平均を上回りました。特に、中学数学は顕著に高い結果となりました。

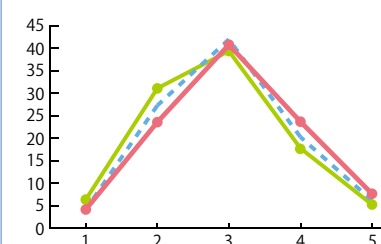


中学理科

平均IRTスコア

吹田市	大阪府	全国
517	487	503

IRTバンド分布グラフ



中学理科では、従来の素点方式(正答数・正答率)ではなく、新たにIRT方式を導入。IRT方式では、生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、学力スコアを推定することができます。

IRTスコア

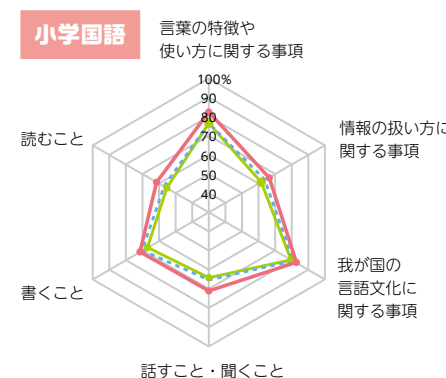
各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表したものです。

IRTバンド

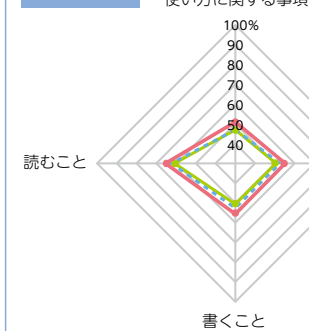
IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもの。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。なお、個人に返却される結果も、IRTバンドで表示されています。

学習指導要領の領域別正答率の全国比

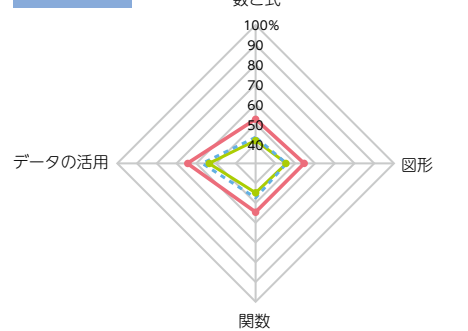
※いずれのグラフも、大阪府、全国は公立の平均



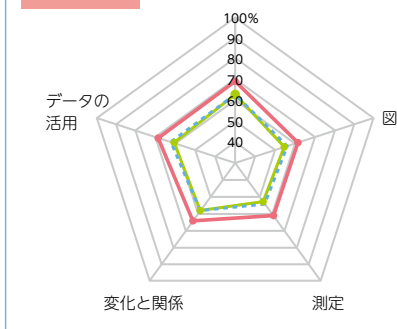
中学国語



中学数学



小学算数



小学理科

